

興味を持ち、考え、試しながら育つ 子供を目指して

市川市立信篤幼稚園長 にしやま 西山 ともふみ 智史



1 はじめに

本園は4歳児（年少）、5歳児（年長）の2年保育、全園児47名の園である。

幼児教育において育みたい資質・能力の三つの柱として「知識・技能の基礎」「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力・人間性等」がある。それらを、遊びを通して身に付けられるようにしていくことが大切であり、そのためには遊びに興味を持ち、主体的に取り組むことが大事だと考えている。

2 年少の取組

年少組は初めての集団生活の場となる子供がほとんどである。まずは園に対する安心感、教師との信頼関係を大切にしながら、友達との関わり、いろいろな物との出会いを大切にしている。例えば魚釣りごっこを取り上げて

みると、一緒に釣りをして遊んでいる友達と「同じ数が釣れた」という喜びや、釣り竿の貸



し借りでの葛藤、また長いひもは釣りにくく、短いと釣りやすいこと、そして磁石の性質なども遊びながら学んでいくことができている。しかし、ただ子供が遊んでいるだけでは「楽しかった」で終わってしまう。資質・能力を育むには、そこに教師がどのような関わりをするのが大事であり、力を入れているところである。このようなことの積み重ねが年長での活動に生きていくのである。

3 年長の取組

年少時にドングリやビー玉を使ってコリントゲームをした経験を生かし、年長では自分たちでビー玉転がしを始めた。年少のころの「ビー玉は坂道で転がる」という知識を基に、牛乳パックやトイレトペーパーの芯など今まで扱った素材を使い、考えたり試したりしながら道を作っていく。なぜビー玉が飛び出してしまうのか、道を曲げるためにはどうしたらいいのかなど、考えを伝えたり、友達の意見に耳を傾けたりしながら進めていく。ここで教師の心構えとして、答えを言わずに一緒に悩み、考えることを大事にしている。他の場面でも同様に、答えを言う（指示をする）ことは、教師としてはとてもやりやすい。逆にそうしなければ、時間はかかり、教師の思うようにいかなくなることも多い。しかしどちらのほうも子供自身の育ちがあるかと考えれば答えは明白である。このような地道なことの繰り返しを大切にすることで先に記した「三つの柱」が身に付いていくと考えている。

4 おわりに

幼児が創り出していく遊びの場面を取り上げたが、一斉活動の場でも同じである。子供の経験や興味の幅を増やすためには一斉活動は必要と考えている。その時に取り組む内容によって何をねらい、感じてほしいのかを教師が明確に持つことによって子供への関わり方が大きく変わってくる。以上のように、特別なことをしてはいないが、何気ない保育の一日一日を大切にしていくことに力を入れている。